





# 審査結果報告書

平成 29 年 9 月 6 日

主査 氏名 岩 渕 和 也   
副査 氏名 堀 口 兵 剛   
副査 氏名 阪 上 洋 行   
副査 氏名 佐 藤 之 俊 

1. 申請者氏名 : 福島 健介

2. 論文テーマ : The cytokine expression in synovial membrane and the relationship with pain and pathological findings at hip arthroscopy.  
(股関節痛と股関節鏡視所見、滑膜内炎症性サイトカイン発現の関連の検討)

3. 論文審査結果 :

申請者は股関節痛を主訴とする患者で、滑膜炎・関節唇損傷治療として関節鏡視下手術を受けた患者 33 例 (男性 10 例, 女性 23 例; 34 股) における, 疼痛・股関節鏡所見・股関節滑膜サンプルの病理所見と遺伝子発現データについて解析し, それぞれの相関を統計学的に検討した。その結果, 関節唇損傷・関節不安定性よりも滑膜炎と軟骨損傷の存在・程度が, 疼痛や臨床症状と相関し, 炎症性サイトカイン (特に TNF- $\alpha$ , IL-6) の発現が疼痛・滑膜炎・軟骨損傷と有意に関連し, 病態形成に重要であることを明らかにした。発表後副査の佐藤之俊教授より, 関節による疼痛誘導メカニズムの差異の可能性, NSAIDs 無効の理由, 解析した発現遺伝子の選択理由, 関節液中の炎症性サイトカインの測定について, また阪上洋行教授より, それぞれの炎症性サイトカインや蛋白分解酵素の産生細胞, サイトカインの作用カスケード, 疼痛感受性などの性差との関連について, 堀口兵剛教授より, 疼痛発来メカニズムについて, 性差・肥満度や筋力, 患者が運動選手であるか否かなどを考慮した場合の相関, 多変量解析の利用について, 主査の岩渕より, 軟骨損傷と炎症サイトカイン産生の因果関係, 抗 TNF- $\alpha$ 抗体の使用可能性に関する質問がなされ, 申請者はそれぞれに概ね適切な回答を行なった。

審査員一同は上記の成果を高く評価し, 承認された申請条件審査の結果, 研究期間における研鑽と発表論文内容も併せ, 申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。